

視覚・聴覚障害児教育論

《担当者名》 佐藤 靖典（非） 三上友佳子（非）

【概要】

視覚障害・聴覚障害のある生徒の心理・生理・病理の理解と障害の状態等の把握、教育課程編成の意義及び方法（含カリキュラム・マネジメント）、各教科等の配慮事項と授業設計について、以下の事項を中心として学修する。

（視覚）・視覚に障害がある幼児、児童又は生徒の教育に関する基礎的理論（視覚障害の生理・病理的側面、心理的特性、教育課程の編成、指導法）と指導実践（点字、歩行、情報・コミュニケーション技術（ICT）の活用、スポーツ）について学ぶ。

（聴覚）・手話活用の広がりや補聴・人工内耳等の進歩で多様化する聴覚障害教育の現状を整理し、教員に求められる専門性を概観する。

【学修目標】

（視覚）視機能の低下の要因となる病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解し、幼児、児童又は生徒一人一人の視知覚や触知覚及び認知の特性を把握することを理解し、教育課程の編成方法およびその指導法を身に付ける。

（聴覚）聴覚障害の状態を理解し、発達段階に応じた指導内容を説明できる力を養うとともに、聴覚障害教育の在り方について自らの考えを表明できることを目指す。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	病理・生理・心理（1）	聴覚障害のある子どもの困難とその背景	佐藤
2	病理・生理・心理（2）	聞こえの仕組みと聴覚障害の類型、補聴器・人工内耳など	佐藤
3	教育課程（1）	コミュニケーション手段の多様性と歴史	佐藤
4	病理・生理・心理（3）	ろう文化とアイデンティティ	佐藤
5	教育課程（2）	特別支援学校（聴覚障害）の教育課程と制度的枠組み	佐藤
6	指導法（1）	音声を活用した指導と課題	佐藤
7	指導法（2）	手話を活用した指導と課題	佐藤
8	視覚障害教育の歴史	視覚障害教育の始まりや職業等についての歴史を学ぶ	三上
9	視覚障害の生理・病理と視覚障害児の心理的特性	眼球構造と疾患、視機能の特性から、生活への影響を考察するとともに、発達過程や認知特性を学び、受容と支援の心理的背景を理解する	三上
10	視覚障害児の認知特性	触覚・聴覚による概念形成や、空間認知のメカニズムを理解する	三上
11	教育課程の編成と視覚支援学校における自立活動の実際	教育課程の編成（意義、方法、カリキュラム・マネジメント）を理解し、点字の初期指導や歩行指導、ICT機器の活用を体験する	三上
12	関係機関との連携	個別の教育支援計画を中心とした教育を実践するために各機関（医療機関等）・家庭の役割、その連携について整理する	三上
13	指導実践	各教科等の指導における配慮事項について理解した上で、視覚支援学校で行われている授業を体験し、指導案作成のポイントと授業改善に向けた視点を考察する	三上
14	指導実践	学習指導案を作成し、模擬授業を行う（Aさん・Bさん）	三上
15	指導実践	学習指導案を作成し、模擬授業を行う（Cさん・Dさん）	三上

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

- (視覚) ・授業における学習の状況 (20点) 毎時レポート (10点) 最終レポート (20点)
- (聴覚) ・授業における学習 (態度等) の状況 (25%)、レポート課題 (25%)

【教科書】

「視覚障害教育入門Q&Aー確かな専門性の基盤となる基礎的な知識を身に付けるためにー」全国盲学校長会編著 (ジアース教育新社)

プリント資料を随時配布

「聴覚障害教育の手引」 文部科学省 (文部科学省HPよりダウンロード)

【学修の準備】

テキスト・プリントの授業回に該当する箇所について確認し、理解を深めること (予習復習各2時間)

【実務経験】

- ・佐藤靖典 (聾学校教諭及び学校長、北海道教育委員会の指導主事 (聴覚・言語障害)、社会福祉法人・難聴児支援部長)
- ・三上友佳子 (盲学校教諭及び主幹教諭)

【実務経験を活かした教育内容】

- ・特別支援学校の校長及び教員、難聴児支援部長としての実務経験を通じた知識・技術・態度等を活用し、実践的な内容を含みながら講義を行う。
- ・特別支援学校の教員としての実務経験を通じた知識・技術・態度等を活用し、実践的な内容を含みながら講義を行う。